

平成24年度 第2回CCC社会学グループ運営委員会 議事概要

I. 日 時：平成24年7月26日（木） 13:30～15:30

II. 場 所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者：津田委員、土屋委員、奥村委員

（事務局）井端事務局長、森下主幹、松本職員

IV. 議事概要

検討内容：学士力の実現に求められる教育改善モデルの検討

- ・教育改善モデル実現に求められる教育力
- ・教育力を実現するためのFD活動と大学としての課題

前回の委員会で作成した「社会学教員に期待される専門性」をもとに、上記2点についての検討を行い、文案を作成した。

1. 以下のような議論を行った。

- ・「専門性」は、改善モデルをベースにしたものではなく、社会学一般を担当するときのコンピテンシーを表したものである。今回は、モデルを実現する上で考える。
- ・教育改善モデル（その1）については、グループ単位でどう進めるかというティーチング・メソッドが重要だろう。
- ・4年間通じてカリキュラムを理解するという点が「教育力」に入る。
- ・きめ細かく学習管理していくための体制づくりや連携が重要になる。
- ・今回のモデルで重要なのは教員のオーガナイザーとしての役割だろう。

2. 上記議論を踏まえ、「教育改善モデル実現に求められる教育力」「教育力を実現するためのFD活動と大学としての課題」についての文案を以下のとおり作成した。

教育改善モデル実現に求められる教育力

- ① 授業のカリキュラム上の位置づけを十分に理解し、教育方針に合致した授業を実施し、さらに工夫・改善できること。
- ② 主体的学習のための基本的スキルを身につけさせるために、問題発見、調査分析、問題解決などの授業の展開に応じた指導ができること。
- ③ 現代社会の現実を反映した教材、資料等を多様なメディアで収集または作成し、共有できるようにすること。
- ④ 社会学の知識を社会生活と関連付け、通常は見過ごされている現象を別の角度から捉える方法に気付かせられること。
- ⑤ フィールドワークやデータ分析を通して課題解決に取り組む中で、グループダイナミックスを進展させる授業シナリオに取り組めること。
- ⑥ 学修ポートフォリオにより、学修成果を振り返らせ、主体的な学びを促していく指導ができること。
- ⑦ ICTを用いて学修成果を隣接諸科学の教員や社会に発信し、評価やコメントを受

けられるように支援できること。

教育力を実現するためのFD活動と大学としての課題

(1) FD活動

- ① 教員間の連携をもとに授業内容と教育方針との整合性の確認および検討を継続的に行う必要がある。
- ② 教育方法に関する研究報告会に積極的に参加し、教員同士が教え合い、学び合うことが必要である。
- ③ ポートフォリオおよびグループ学習や対話型授業などの指導法について、ワークショップを組織的に行う必要がある。
- ④ 到達度水準の策定や外部評価による振り返りについて、専門家の招聘および教員間のディスカッションなどの研究会を実施する必要がある。

(2) 大学としての課題

- ① 授業の録画、教材コンテンツ、ネットワーク上のディスカッションを可能にするため、学内外の多様なコンテンツをアーカイブする必要がある。
- ② ポートフォリオを通じて学生の到達度を申告させ、到達度が不足している場合に補完する仕組みが必要となる。
- ③ 関連分野の教員や社会の専門家などから協力を得るために、連携の呼びかけ、制度の整備および財政的な支援を行う必要がある。
- ④ ICTを活用した教育手法を支援する組織と環境を大学として整備する必要がある。

3. 次回までの課題として、学士力の考察を作成したことに関して、なぜそう考えたかという解説文（「物語風」に）を作成する。

V. 次回委員会

2012年8月20日（月）10:00～開催されることとなった。

以 上